

プロシーディング

あなたに似合う歯・色の選び方
— 審美歯科補綴とスマイル・トレーニング —

木 暮 ミ カ

明倫短期大学 歯科技工士学科

How to choose the most suitable tooth form and color

— Esthetic prosthodontics and smile training —

Mika Kogure

Department of Dental Technology, Meirin College

要旨

自分の歯を健康的な色と形にすることにより、笑顔を魅力的に改善する方策の検討を目的とし、特に顔面における健康的な色の調和という観点から総合的な色の調和を図るための歯科色彩調和論について解説した後、歯を審美的に治療するための治療法について、最新の歯科補綴物や昨年発表された暫間的な色調改善法である歯のマニキュア「ホワイト・コートTM」の紹介と、顔面筋のストレッチによるいわゆるスマイルラインの改善法などを紹介した。

キーワード：審美歯科 / オールセラミック・クラウン
/ ダイレクト・ボンディング / ホワイト
コート / スマイル・トレーニング

Keywords: Esthetic dentistry / Allceramic crown
/ Direct bonding / Whitecoat / Smile
training

1. はじめに

歯科治療の受診者の約50%が、その理由の一番に「微笑を改善してより魅力的に見られたい」という審美的要求を挙げている¹⁾ことから、歯科治療のあらゆる分野に於いて、今や審美性は重要な因子となっている。魅力的な笑顔の重要性と、それが人の顔の外見に及ぼす影響度は、決して過小評価される

べきではない。魅力的な笑顔を構成する大きな要素²⁾として、健康で美しい歯を見せるということが挙げられるが、治療技術や補綴材料の開発が高度に進み、天然歯と見まがうばかりの補綴物を製作することが可能となった今、口腔内だけの局所的な調和だけに留まらず、顔貌全体の色や形態の調和を考慮した治療を行うことにより、術者と患者の双方がより大きな満足を手に入れることが出来るのではないだろうか。

本稿では、「患者の笑顔をより魅力的にする」という目的で、歯を治療する際の審美性について、特に顔面における健康的な色の調和という観点から、総合的な色の調和を図るための方策として、歯科色彩調和論および最新の歯科治療法、補綴製作時の基準となる「スマイルライン」の改善法として筋機能療法 (Oral Myofunctional Therapy, 以下MFT) の一種である「スマイル・トレーニング」や新規口腔リハビリ器具「パタカラ」を用いた表情筋機能療法などを紹介する。

2. 歯科色彩調和論

しばしば、いい笑顔と素晴らしい笑顔の違いは歯の白さであると言われている。しかし昨今のホワイトニング・ブームの影響で、実際の歯冠色は象牙色に近い色であるにもかかわらず、青白く明るい白い

歯（いわゆる「カリフォルニア・ホワイト」と呼ばれているという歯の色）が理想と思いこんでいる人が多い。しかし青白く明るい白い歯は、肌の色に黄みのない欧米人であれば違和感なく美しいかもしれないが、我々黄色人種がこの歯の色にすると全体的な色の調和が崩れ、美しいどころか取って付けたような嘘くささを感じさせ、第一印象を悪くしかねない。また、歯の色の感じ方は口の周囲の色によって相対的に変わるため（図1）、色陰現象や対比現象など³⁾に十分配慮した上でシェードテイキングしなければ失敗を招きやすい。以上のことを考慮した上で、本当に似合う美しい歯の色というものを検討する必要がある。

3. 審美歯科補綴

修復治療の診断から初期治療を経て歯冠形成・シェードテイキング・最終補綴に至るまでの長期に渡る様々な治療が成功したとしても、補綴物自体がナチュラルな審美性を満たしていなければ、患者にとってはそこまでの治療全てが無意味なものになる。なぜなら患者にとっての修復治療の最優先課題は、まさに審美性の獲得にあるからである。しかし一概に審美的な補綴物といってもその意味は広範にわたり、また術者と患者の嗜好にも左右されかねない。これらを踏まえて審美歯科補綴の最先端技術を紹介する。

1) オールセラミック・クラウン

従来、修復用セラミック製クラウンのほとんどが金属焼付ポーセレン冠（外観に影響のない部分に金属を使用し、その金属にセラミックを焼き付けたもの）であったが、近年では審美性・生体安全性・強度に優れた「オールセラミック・クラウン」への移行が急激に普及している。オールセラミック・クラウンは金属で光を遮断せず、天然歯と同じように透光性があるので光学的に優れており（図2）、自然感のある審美的な修復物製作が可能である。さらに現在では、コーピング（内冠）をCAD/CAMにより製作することで、より精度の高いものが製作可能となった。またメタルフリーなので金属アレルギーの心配がなく生体安全性が高い等、多くの利点があり、今後ますます普及するものと思われる。

2) ダイレクト・ボンディング

MI（Minimal Intervention Dentistry）時代の近年、最小限の侵襲での修復の必要性が改めてク

ローズアップされている。以前は審美性とMIを両立させることは困難であったが、歯質に強力に接着するボンディング材と、歯質の色調に調和しつつ十分な強度を備えるコンポジットレジンにより、最小限の侵襲で高次元の審美修復が可能となっている。通常、コンポジットレジン修復は一色のみで行うが、「ダイレクト・ボンディング法」（図3）はオペークシェード、デンティンシェード、エナメルシェードの三層構造をベースに、サービカルシェード、トランスルーセントを加えた複数の透明性の異なるペーストを積層築盛することで、天然歯のような自然観あふれる美しい歯の再現を可能にしているのが特徴である。また、前装冠などの補綴物の装着に比べて歯質の切削量が少なく、来院したその日のうちに修復が完了するのでチェアタイム短縮に繋がるため、患者負担も軽減されることが期待できる。

3) 審美的歯面コート材「ホワイトコート™」

「日本デンタルショー2004」で発表された審美的歯面コート材「ホワイトコート™」は、いわゆる「歯のマニキュア」ともいえる材料と言われている⁴⁾（図4）。最近では歯の色調改善法としてホワイトニングが広く一般的に行われるようになったが、歯冠修復と比較すれば歯質への侵襲は少ないものの、時間的負担や最終的な色の調整が困難であるなどの欠点があるが、このホワイトコートは歯質を切削する事なく短時間で任意の白さに歯冠色を変化させる事が出来る方法なので、一般の人が簡単かつ低料金で「白く輝く歯」を体験することができるという点で、審美歯科治療の第一歩として大変優れた治療法であると言える。

4) スマイル・トレーニング

顔の審美性は顔貌と表情からなり、審美歯科においては口元の美しさの基準であるスマイルラインは口角の位置により大きく変化する。そこで、より良い笑顔を作る手法の一助として表情筋のトレーニングによるスマイルラインの矯正が挙げられるが、特にMFTの一種である「スマイル・トレーニング」についてはその有効性が多数報告されている^{5・6)}。この手法はアンチエイジングにも効果があり、さらに眼瞼挙筋や眼輪筋のストレッチの併用により、眼をいきいきと輝かせることも可能である（図5）。また新規口腔リハビリ器具「パタカラ」を用いた表情筋機能療法も口腔周囲の表情筋に直接働きかける訓練であり、リップエクサ

サイズとして最近注目されている⁷⁾。

4. おわりに

2004年に行ったアンケートによれば、歯の色に自信の無い女性は7割を超え、白い歯を手に入れる事が出来れば今より積極的になれ、明るい性格になると答えた人が3割近くもいた。このことより⁸⁾、審美歯科治療はますます需要の伸びる分野であることが考えられる。審美歯科を通じてより多くの方々に「素敵な笑顔」を提供できるよう、今後とも自己研鑽を積んでいきたいと思う。

参考文献

- 1) Goidstein, R.E. : Esthetics in dental curriculum, J.Dent, 45 : 355, 1981
- 2) Robert P Renner : 口腔解剖と審美性入門, クインテッセンス, 241, 1992
- 3) 川崎秀昭 : 配色入門, 日本色研事業, 41-46頁, 2002
- 4) 松尾通, 永瀬佳奈 : 歯の美と健康, ヒョーロン, 65-73頁, 2004
- 5) 川村芳子, 他7名 : モーションキャプチャーシステムを用いたスマイルトレーニング前後における笑顔の動的分析, 歯科審美, 17 : 241-244, 2005
- 6) 中村隆志 : 21世紀を迎えての歯科審美のあり方を問う 歯科審美における顔・口腔の美, 歯科審美, 12 : 75-83, 1999
- 7) 嘉ノ海龍三, 香西雅通 : 美しいスマイルのために -リップエクササイズのすすめ-, 日本歯科評論, 662 : 13-15, 1997
- 8) 秋本尚武, 他2名 : 「ホワイトコート」 : デンタルコスメの新しい流れ, Dental Magazine, 114 : 1-10, 2004

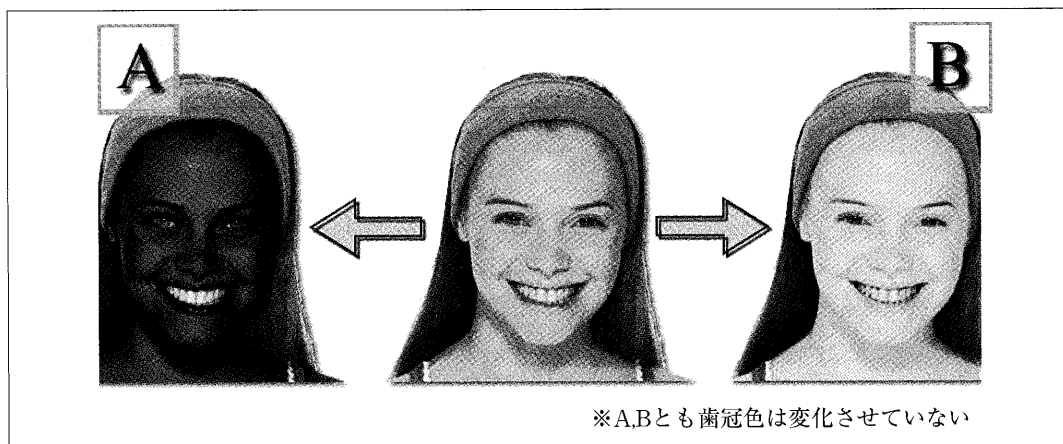


図1. 肌色の変化による対比現象

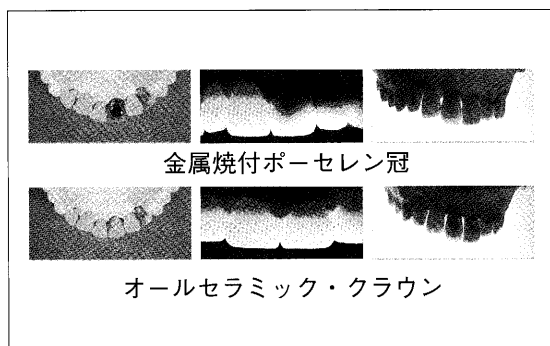


図2. 補綴物の光学的な相違

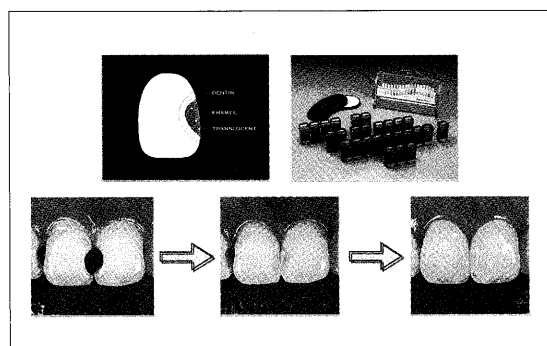


図3. グラディア・ダイレクトによる修復例

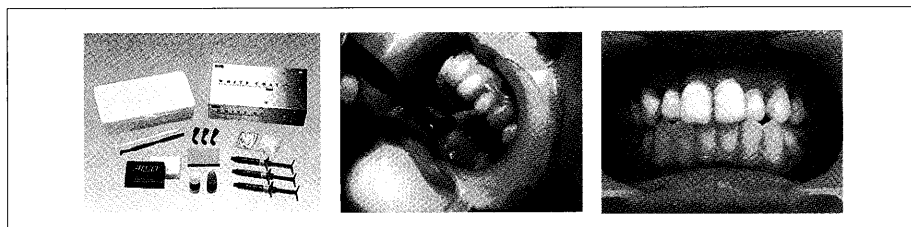


図4. ホワイトコートによる修復例

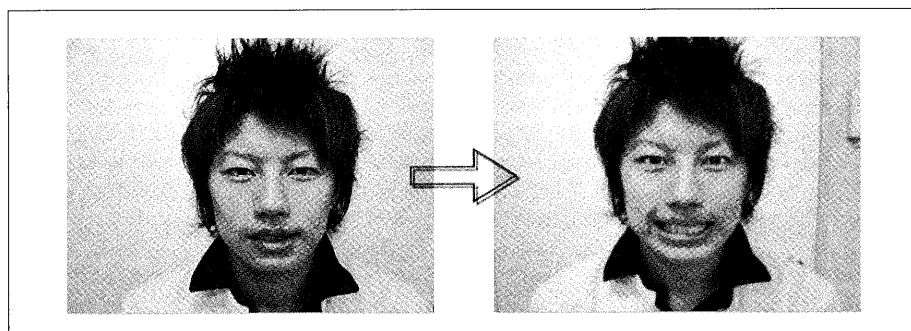


図5. スマイルトレーニング